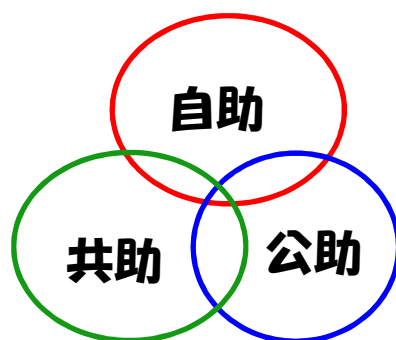


安城市校区別地震防災カルテ

学区：安城中部小学校区



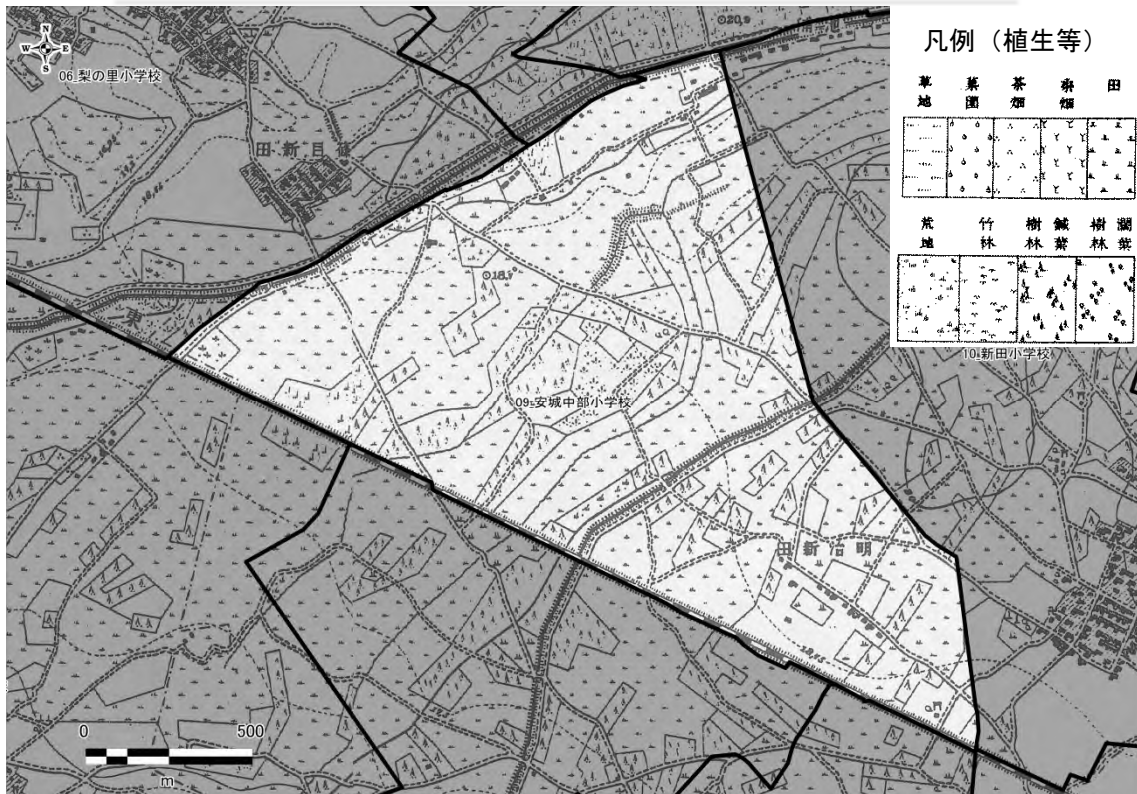
自分たちが住んでいる地区の状況や被害想定、防災施設を把握し、地震に強いまちづくりを進めていきましょう。

安城市

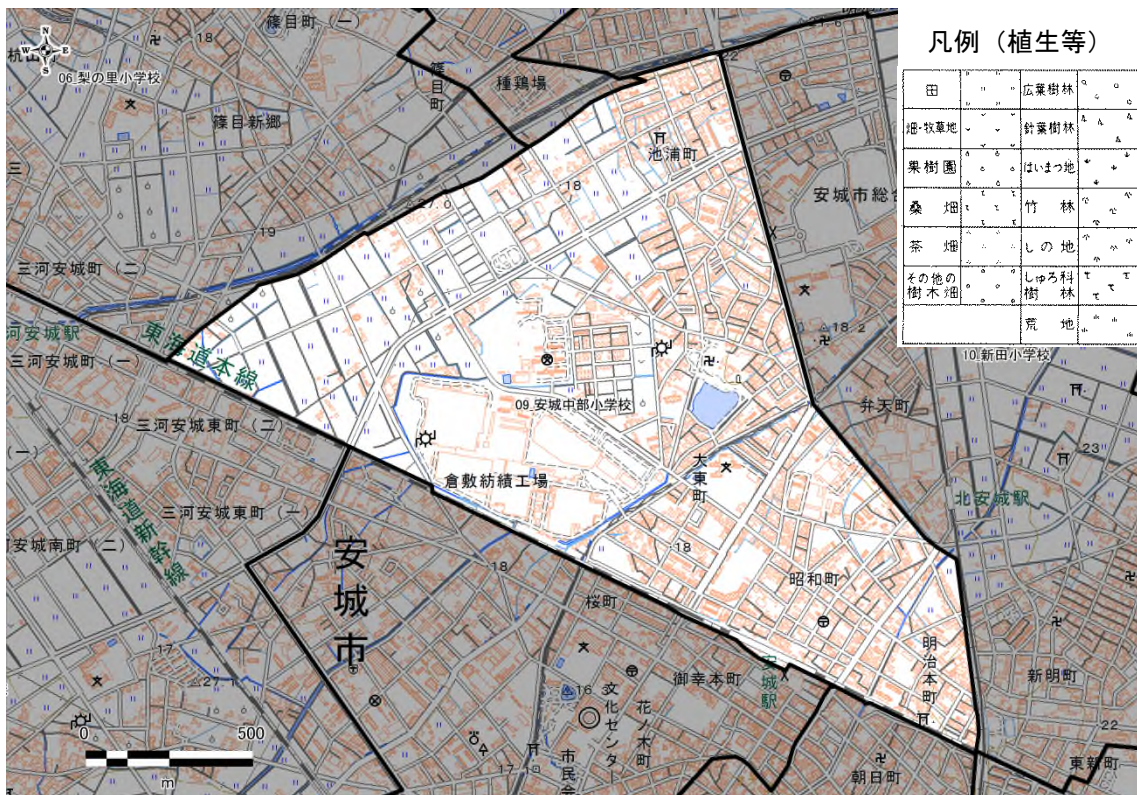
目 次

安城中部小学校区のむかしと今	1
1. 校区の位置図	2
2. 校区の構成	2
3. 校区の概要	2
4. 被害予測の結果（過去地震最大モデル）	4
5. 被害予測の結果（理論上最大想定モデル）	6
6. 防災関連施設	8
7. 避難所等一覧	9
8. 防災上の課題	9
9. 防災関連施設分布図	10

安城中部小学校区のおかしと今

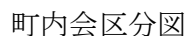
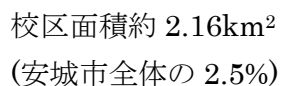


むかし（1890年（明治23年）ごろ）の校区付近の地形



今の校区付近の地形

1. 校区の位置図



2. 校区の構成

明治本町、昭和町、大東町、池浦町〔狐穴・境目・下原新切・蝮畔・丸畔・丸田・茶筌木・池西・池浦・大山田上(市道大東住吉線以西)・小山西(市道大東住吉線以西)〕、新田町〔大山田上・井東・弁天前・丸畔・小山(市道大東住吉線以西)・小山西(市道大東住吉線以西)〕

3. 校区の概要

【位置】 安城中部小学校区は、市中心部のやや北に位置する。

【地形】 校区全体が台地上にある。河川はないが、明治用水の水路がはりめぐらされている。

【土地利用】 校区西部の一部に田畑があり、大規模事業所も存在する。その他は住宅が広がっている。

また、中部小学校・安城北中学校・安城農林高等学校と教育施設も多い。

【交通】南東方向に県道岡崎半田線（47号線）が通っており、県道豊田安城線（76号線）、県道安城八ツ田知立線（285号線）と交差している。

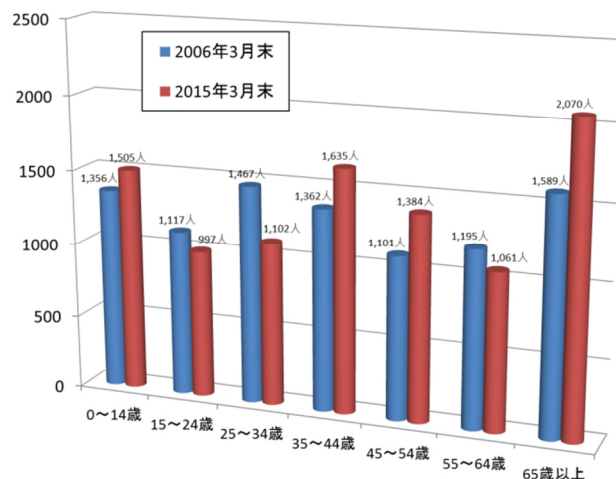
桜町小学校区との境界には JR 安城駅がある。

【その他】町内会は、池浦町内会、明治本町町内会、昭和町内会、大東町内会、新田町内会

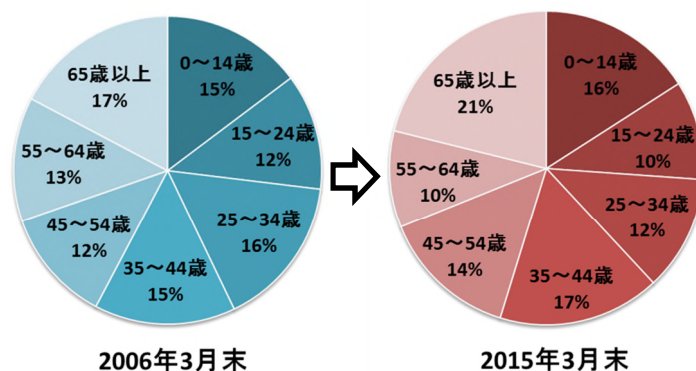
【人口等】(2006年3月末時と2015年3月末時の比較)

人口は増加している。ただし、65歳以上の高齢人口比率も増えている。

2006年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,356人	15%
15～24歳	1,117人	12%
25～34歳	1,467人	16%
35～44歳	1,362人	15%
45～54歳	1,101人	12%
55～64歳	1,195人	13%
65歳以上	1,589人	17%
人口(合計)	9,187人	100%
人口密度	4,253人/km ² (全市 2,013人/km ²)	
世帯数	3,201世帯 (対全市 5.3%)	

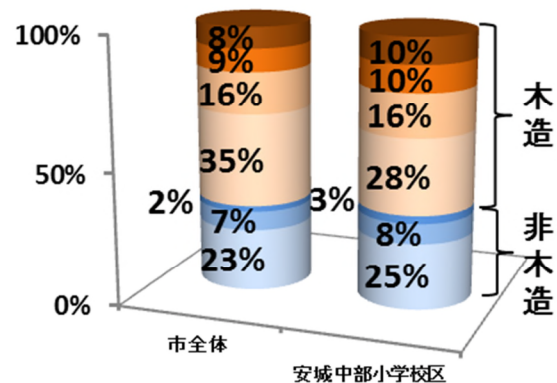


2015年3月末	人口	校区内での比率
0～14歳	1,505人	16%
15～24歳	997人	10%
25～34歳	1,102人	12%
35～44歳	1,635人	17%
45～54歳	1,384人	14%
55～64歳	1,061人	10%
65歳以上	2,070人	21%
人口(合計)	9,754人	100%
人口密度	4,516人/km ² (全市 2,151人/km ²)	
世帯数	3,887世帯 (対全市 5.6%)	



【建物棟数】(2011年12月)

	建物棟数(2011年12月)	校区内での比率
木造	昭和36年以前	285棟 10%
	昭和37～46年	308棟 10%
	昭和47～56年	478棟 16%
	昭和57年以後	824棟 28%
非木造	昭和46年以前	86棟 3%
	昭和47～56年	220棟 8%
	昭和57年以後	729棟 25%
建物棟数(合計)		2,930棟 100%
1km ² 当たりの建物棟数(校区／全市)		校区: 1,356 / 全市: 699(棟/km ²)

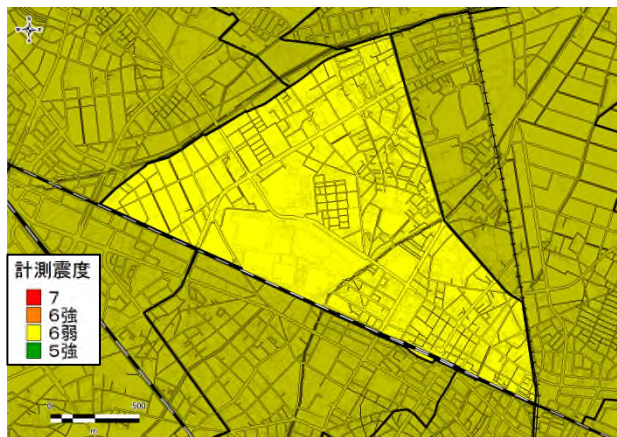


4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

過去地震最大モデルとは：

- ・南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで大きいもの（1707年「宝永地震」(M8.6)、1854年「安政東海地震」(M8.4)、1854年「安政南海地震」(M8.4)、1944年「昭和東南海地震」(M7.9)、1946年「昭和南海地震」(M8.0))を重ね合わせたモデル。
- ・本市の地震対策を検討する上で重要な想定とした。

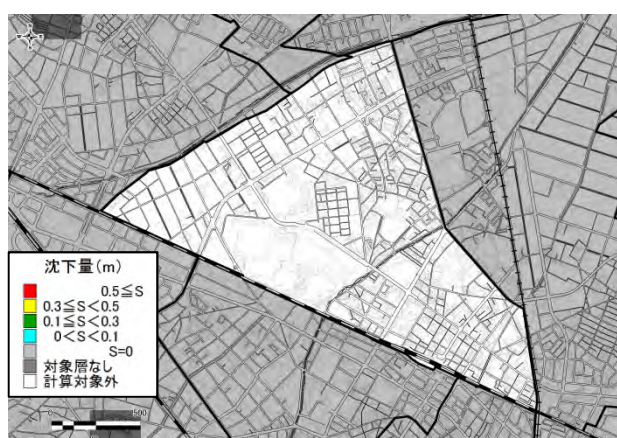
① 想定される地震動の強さ (250m メッシュ)



② 液状化の危険性 (250m メッシュ)



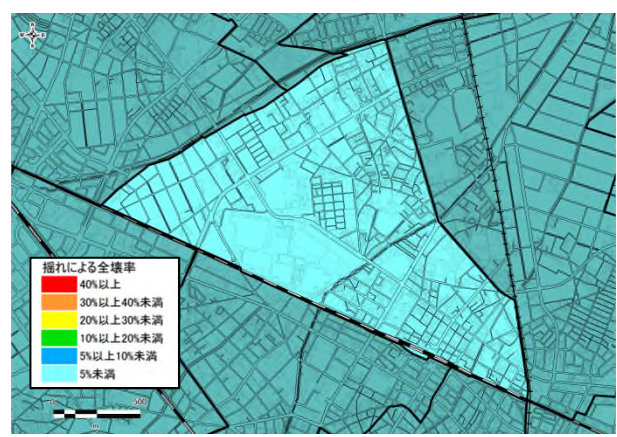
③ 地盤沈下量 (250m メッシュ)



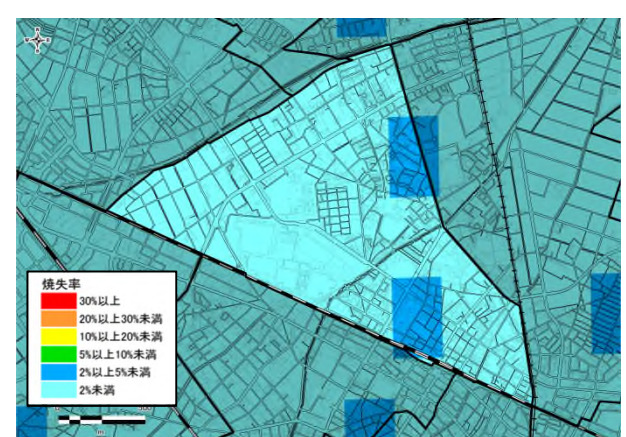
④ 全壊焼失率 (250m メッシュ)



⑤ 揺れ全壊率 (250m メッシュ)



⑥ 焼失率 (250m メッシュ)



4. 被害予測の結果(過去地震最大モデル)

安城中部小学校区は、震度 6 弱の揺れが想定されている。震度 6 弱は立っていることが困難になるほどの揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。液状化に関しては、全域が台地上に立地しているため、液状化対象外である。JR 安城駅周辺では、帰宅困難者が最大で約 4,400 人程度となる可能性があり、一時滞在施設の確保を検討する必要がある。

<建物・人的被害の予測>

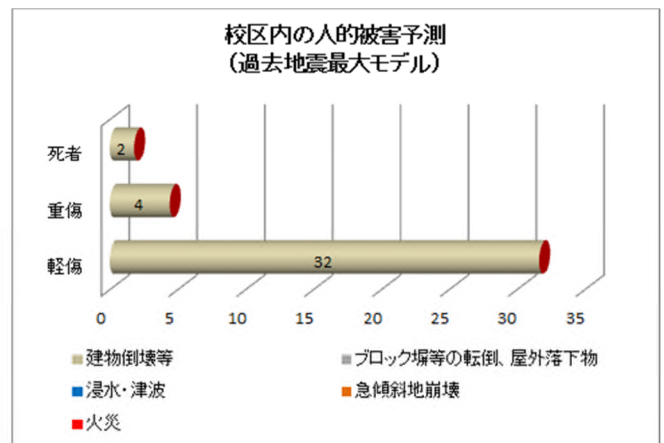
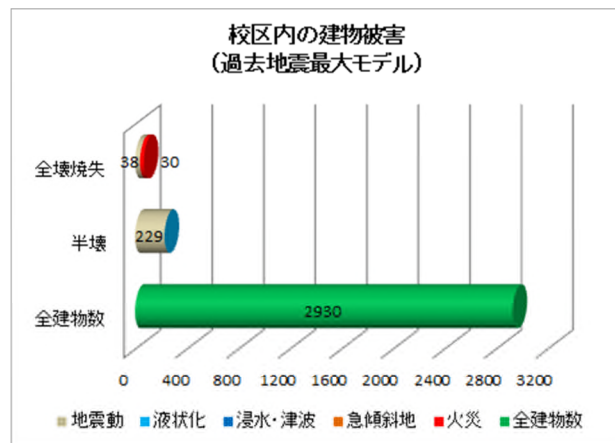
単位: (棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数2,930棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	38	229
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	30	—
建物被害総数	68 (2.3%)	229 (7.8%)

単位: (人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口9,473人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	2	4	32
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	*	(1)	(5)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	*	*	*
被害者数合計	2 (0.02%)	4 (0.05%)	32 (0.33%)

*: わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

<ライフライン被害の予測>

ライフライン	被害	95%復旧するのに
上水道	被災直後、約9割が断水	約6週間
下水道	被災1日後、約7割が利用困難	約3週間
電力	被災直後、約9割が停電	約1週間
通信【固定電話】	被災直後、約9割が通話支障	約1週間
通信【携帯電話】	被災1日後、基地局の電波が停止する確率が、最大約8割	約1週間(基地局の復旧)
都市ガス	被災直後、0.3割が供給停止	約2週間
LPガス	被災直後、約1割が機能支障	約1週間

<避難者数の予測>

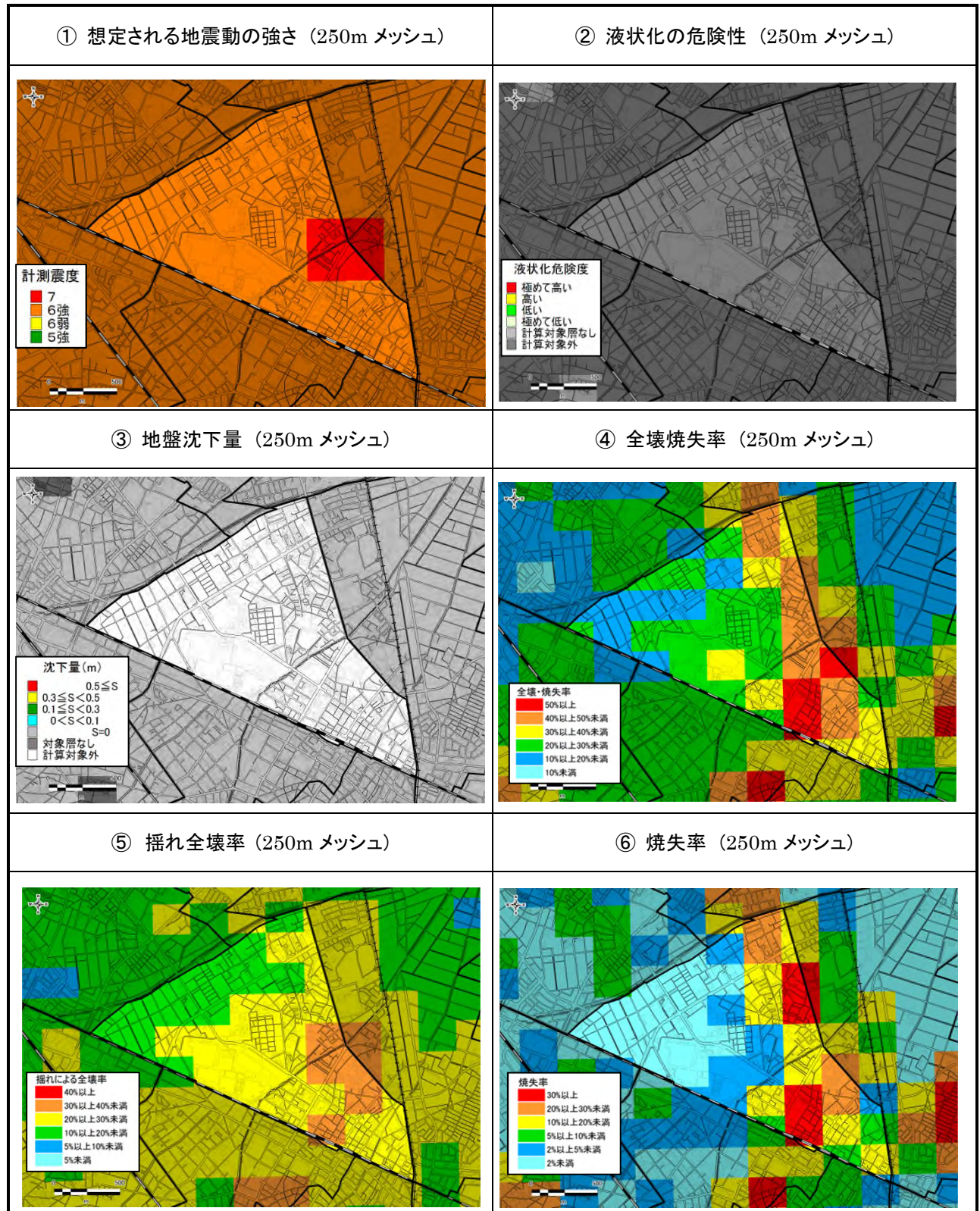
	1日後			1週間後			1ヶ月後		
	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外	避難者数	避難所	避難所外
安城中部小学校区	324	194	129	1,326	663	663	324	97	226
市計	8,271	4,976	3,295	26,649	13,359	13,289	8,142	2,442	5,699

※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

理論上最大想定モデルとは：

- ・南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、千年に一度、あるいはそれよりもっと発生頻度が低い地震。発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震。
- ・「命を守る」という観点で想定外をなくすことを念頭に地震対策を講じることが不可欠であることから、あらゆる可能性を考慮して想定した最大クラスの地震・津波モデルとして設定。



5. 被害予測の結果(理論上最大想定モデル)

安城中部小学校区は、震度 6 強から一部で震度 7 の揺れが想定されている。はわないと動くことができないほどの非常に強い揺れであり、建物の耐震補強と家具の固定を進めることが大変重要である。

液状化に関しては、全域が台地上に立地しているため、液状化対象外である。

帰宅困難者は、過去地震最大モデルでの想定と同様に見込まれるため、一時滞在施設の確保を検討する必要がある。

<建物・人的被害の予測>

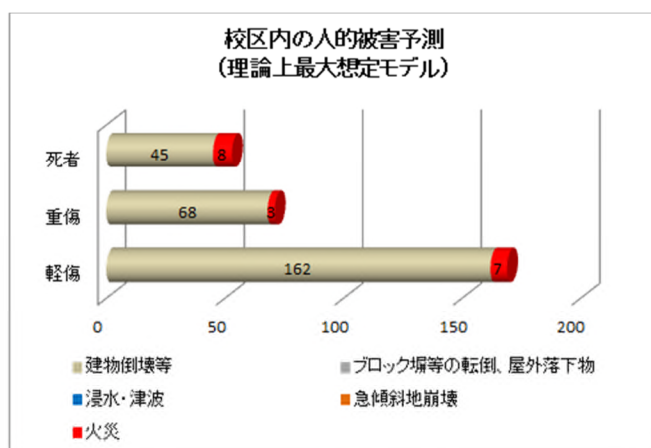
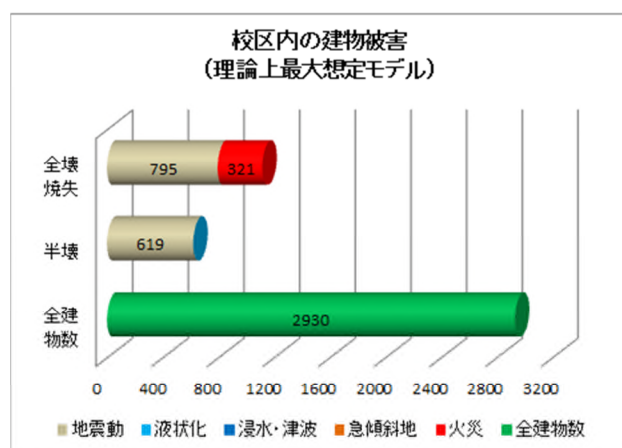
単位: (棟)

建物被害【冬・夕方発災】		
※()内は、校区の建物棟数2,930棟に対する割合		
	全壊・焼失	半壊
地震動	795	619
液状化	*	*
浸水・津波	0	0
急傾斜地	0	0
火災	321	—
建物被害総数	1,115 (38.1%)	619 (21.1%)

単位: (人)

人的被害【冬・深夜発災】			
※()内は、校区の深夜人口9,473人に対する割合			
	死者数	重傷者数	軽傷者数
建物倒壊等	45	68	162
(うち屋内転倒物・ 屋内落下物)	(3)	(14)	(46)
ブロック塀等の転倒、 屋外落下物	*	*	*
浸水・津波	0	0	0
急傾斜地崩壊	0	0	0
火災	8	3	7
被害者数合計	53 (0.56%)	71 (0.75%)	169 (1.79%)

* : わずか



※四捨五入の関係で、合計が必ずしも一致しない場合があります

6. 防災関連施設

防災関連施設	名称
警察署	安城駅前交番
緊急時ヘリポート可能箇所	安城農林高等学校グラウンド
消防署	—
消防団	池浦分団詰所、北明分団詰所
拠点病院・救急病院・災害医療救護所※	—
自主防災組織数	3
防災倉庫・防災資材庫	安城中部小学校、安城農林高等学校
応急給水施設	安城中部小学校、安城農林高等学校
井戸	5
マンホールトイレ	—
学校	安城中部小学校、安城農林高等学校
保育園	安城保育園
幼稚園	安城北部幼稚園
公民館・福祉センター	—

※大規模災害時にのみ開設される救護所

7. 避難所等一覧

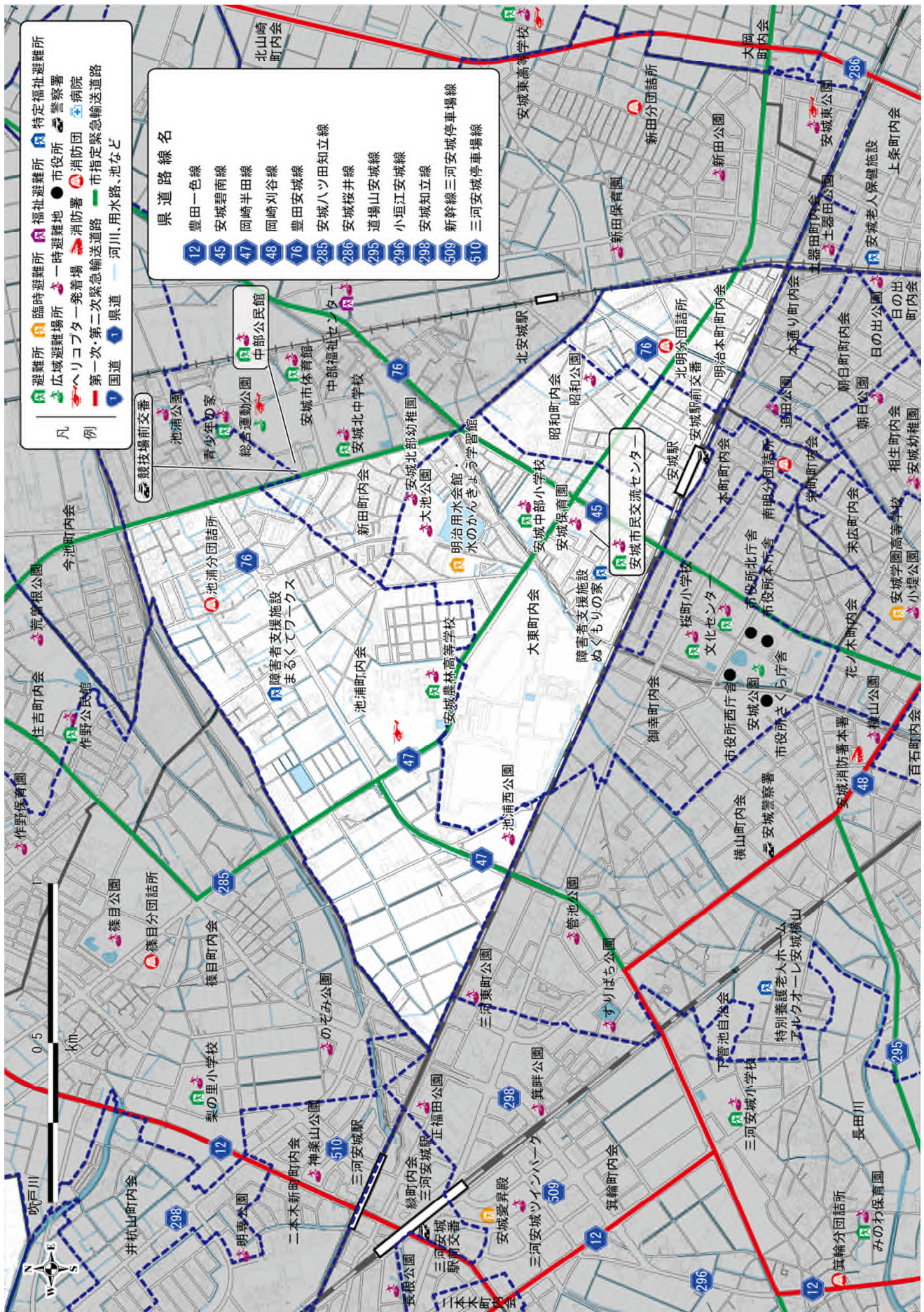
避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	避難所	安城中部小学校	75-2721	大東町 12-8	270
		安城農林高等学校	76-6144	池浦町茶筌木 1	570
		安城市民交流センター	71-0610	大東町 11-3	230
臨時避難所	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	臨時※	明治用水会館 水のかんきょう学習館	76-6560	大東町 22-16	—
福祉避難所等	区分	施設名	電話番号	所在地	収容可能人員[名]
	特定福祉※	障害者支援施設 まるくてワークス	77-1000	池浦町丸田 160-2	—
		障害者支援施設 ぬくもりの家	77-0555	大東町 5-28	—
避難場所等	区分	名称		所在地	面積[m ²]
	一時	大池公園		大東町 1675-2	33,600
		昭和公園		昭和町 822	3,100
		池浦西公園		池浦町狐穴 15-1	21,000
		安城中部小学校		大東町 12-8	8,000
		安城農林高等学校		池浦町茶筌木 1	22,000
		安城市民交流センター		大東町 11-3	—
		安城保育園		大東町 11-30	1,100
		安城北部幼稚園		大東町 25-40	1,600

※市の依頼に基づき開設される臨時的な避難所

8. 防災上の課題

- ・昭和 56 年以前に建築された木造住宅が多い地区となっており、被害想定では、全壊・焼失、半壊となる建物の割合は、過去地震最大モデルで約 10%、理論上最大想定モデルで約 59%となっている。また、人的被害においても、建物倒壊等による死者数、重傷者数が、過去地震最大モデルで 6 人、理論上最大想定モデルで 113 人となっている。建物被害や人的被害を減少させるためには、昭和 56 年以前に建築された建物の耐震診断や耐震改修により建物の耐震化を進めることが必要である。
- ・火災による人的被害では理論上最大想定モデルで死者数、重傷者数が 11 人となる想定が出ている。火災による人的被害を減らすため、各家庭での消火器の準備や感震ブレイカーの設置などにより、火災を発生・拡大させない対策が必要である。
- ・J R 安城駅周辺では、帰宅困難者が最大約 4,400 人程度発生する可能性がある。一時的に滞在できる施設を確保するとともに、地震発生後しばらくの間は、安全が確保されるのであれば、職場や学校に留まるよう啓発することも重要である。

9. 防災関連施設分布図



平成28年8月配布
安城市危機管理課